

2014年3月18日

報道各位

ニューホライズン キャピタル株式会社

IPOを視野に「まぐまぐ」の経営権を取得

投資ファンド運営のニューホライズン キャピタル株式会社（本社東京都港区西新橋、取締役会長兼社長 安東 泰志、以下「NHC」）は本日、メールマガジン配信サービス大手の株式会社まぐまぐ（本社東京都渋谷区渋谷、代表取締役小森良介、以下「まぐまぐ」）の成長支援を正式に決定しました。本事案は、弊社にとって2本目となる企業再生支援ファンド「ニューホライズン2号投資事業有限責任組合（NH-2）」（予定総額170～200億円）の投資対象企業となります。

NHCは、開発資金など経営上の問題によって成長の壁に突き当たっている「まぐまぐ」に対して、約3分の2の議決権取得と弊社からの取締役派遣によるハンズオンによって、成長支援を完遂する計画です。

「まぐまぐ」が提供する国内最大級のメールマガジン配信サービスは、電子メールの普遍性と簡便性を活かした誰にでも簡単に使える情報発信ツールとして、一般インターネットユーザーから著名人、企業、公共団体まで幅広く利用されています。一方、同社の事業収益の一翼を担うインターネット広告市場は、電子メール広告以外の領域での伸張が特に著しく、テレビに次ぐ広告媒体として13年には日本において1兆円を突破する勢いにあります。

そうした中であって同社は、これまでのメールマガジンによる情報配信サービス事業のノウハウとユーザーを基盤として、ウェブサイト、モバイルアプリ、ソーシャルネットワーク、電子書籍などのデジタル媒体を統合的にカバーする万人のための情報発信プラットフォームとしてさらなる成長を遂げるために、システムと広告商品の開発を行なって参ります。NHCは、そのための資金と人材を提供します。

NHCは、大株主からの株式譲渡を受けると共に、開発資金に相当する第三者割当増資に応じることによって議決権の3分の2程度を掌握いたします。本日の臨時株主総会決議の結果、3月24日に株式譲渡が実行、そして第三者割当増資の払い込みへ進んでいくこととなります。

弊社の会長兼社長の安東泰志は、本件について「メルマガ発行のまぐまぐは、今後の成長産業であるインターネット広告ビジネスにおいて重要な役割を担っている企業の一つです。ガバナンスの徹底と開発力の強化によって、有力な成長企業に生まれ変わるものと期待して

います。投資期間は3～5年と考えていますが、早ければ3年後のIPOを目指します」と述べています。

以上

ニューホライズン キャピタル株式会社

産業再編、事業再生のプロを多数擁する独立系企業再生（PE）ファンド。02年2月に創業した前身のフェニックス・キャピタル時代から06年10月の会社分割を経て通算12年超の実績（独立系ファンドとしては最大規模の累積運用資産総額2,300億円超）を背景に、NHCとして2本目、創業から8本目のファンドを運営しています。02年以来、すべてのファンドの創設時にキーマン（主運用責任者）をつとめてきた安東泰志をはじめとするNHCのチームメンバーは、三菱自動車をはじめ、ティアック、東急建設、不動建設、世紀東急建設、市田、ツムラ、ハウステックなど、エクイティー投資先だけで27社、債権買取を含めると80社以上という日本随一の企業再生・再編投資実績を有しています。目下、企業再生支援ファンド「ニューホライズン2号投資事業有限責任組合（NH-2）」について、3月末の期限に向け銀行をはじめとする多様な機関投資家の皆様と協議中です。

本件に関する問い合わせ先：

広報担当（IFC） 竹江

電話 03-5532-8921